

AMUSEMENT SQUARE stage

世紀末の夏が、過ぎようとしている。この原稿が無事掲載されたアミューズが発刊されていればとりあず、七の月は終わっていて人類はまだ、生きているのだろうか。

一九九九年、二月。プロデュース集団テアトロ「b.e.」に参加。「パズル・タダシサの限界」で、青森・八戸・東京、三ヶ所での公演を終えた。

あれから、数ヶ月。久しぶりに、ゆつくりと生活していた。締め切りに追われることなく、稽古に追われることなく。

思えば、昨年は逃亡者のような生活をしていったような気がする。それはもちろん精神的にという意味で、もちろん誰に強制されたわけでもなく自分で選んでそうやっていったわけで、楽しかったのだけだ。

とにかく、久方ぶりの休息。羽を伸ばし、命の洗濯。

うん、極楽・極楽。そんな日々の静寂を、まず破ったのは青森の劇団雪姫だった。

依頼されていた脚本の確認の話である。締め切りは、五月末であった。劇団雪姫は、普段、既成の脚本を緻密に作り上げた舞台を上演している劇団である。その緻密さに、脚本が耐えうるのかどうか？ 事前に打ち合わせていた内容に沿ったプランは考えてある。だが、いや、でも…。劇団演出の貴田氏の柔和な微笑が、顔を離れず期待と不安を掻き立てる。

：マケテナルモノカ。

そして、私の手を無事離れた脚本は今ごろ青森の空の下で、着実に舞台へ向け形になっていくだろう。

その脚本のタイトルは「忘却の夢路」。公演本番は九月四日・五日。青森市ライブスペース1/3で、上演される。

本番までの数ヶ月。心待ちにしながら、また、ゆつくりと日々過ごす。

と、思っていたのに…。

そう、世紀末の夏。今また逃亡者のような生活に逆戻りしている。テアトロ「b.e.」召集。

召集といっても、劇団制を取っている集団ではなくプロデュース制の集団であるのだから参加の意思は、個人に委ねられている。前回参加したからといって今回も参加しなければならぬということではない。けど、参加している自分が存在する。

なぜ？

生み出された作品、作品を生み出すという行為は非難されることも、否定されることも多く、犠牲になるものも多い。また、そうして世に出された作品が受け入れられない場合も多いのが、現実だ。

そんなことは、もう嫌と言うほど味わっている。

しかし、過ぎた日々は甘い思い出に変わり、苦しい思いを彼方へ押しやり、奇妙な懐かしさが私の首を縦に振らせたのか？

否！

休息は、無駄ではなかったらしい。硬く強張っていた気持ちがほぐれてみたら、見える景色が少し違って見える。その変化が、脚本にどのように影響するだろう？ それを知るには、書くしかないということだ。

本当に忙しく辛い事もあったが、今、昨年の活動は無駄では無かったと、そう思える。

年を経るごとに、いろいろな責任も増え、気持ちだけでどうにもならないことが増えていく。

それでも、続ける人。潔く、辞めてしまう人。続けたいと思いつながら、何も出さない人。

辞めたいと思いつながら、続けている人。

いろいろな人がいる。

迷いながら、いる。走り続けていたら見えなかったことと、走り続けていたから見たこと。どちらも、どっちだ。

「そして誰かが、いなくなった」

〈文／脚本家・長尾広海〉

8月のFriday Amusement Negative Shop

■6日(第287回) 独り芝居2本立て
「閉じ込める男」作：L 出演：田中勉
「ジャンク」作・出演：安達良春

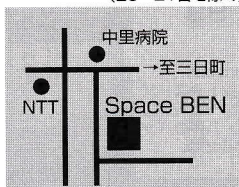
■13日(第288回)
FANSプレゼンツビデオ上映

■20日・21日(土) (第289回)
シアターO [hidarinaname - ue]
☆旗揚げ公演☆
「させん」「TWINS」
15:00/19:30
一般 ¥1000
高校生以下 ¥500 (前売り・当日共)

■27日(第290回)
FANSプレゼンツビデオ上映

FANSでは、役者、スタッフ、その他何でも、何かを表現してみたい人を募集しています。ご遠慮なく、ご連絡下さい。

※全て午後7時30分～、料金500円
(20・21日を除く)



駐車場はございませんので、車のご来場はご遠慮下さい。
(近くに西町書店駐車場有り)

図 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎FAX 43-9876

FANSの番組につきましては、デリー一東北の「あすのメモ」「きょうのメモ」欄でご確認下さい。

でも、いつだって人を動かす最大の力は、至って単純なことだ。理由や、理屈は後から付いてくるもの。観たい、楽しみたい、やってみたい、書いてみたい。

ただ、それだけのこと。ただ、それだけのことが人を動かす。ただ、それだけで動く人がいる。そう思うと、まだまだ楽しいことが、たくさん起こりそうなのが、見えてくるのだ。

ソシテ：マタ：イソガシイヒジ。

九十九年度テアトロ「b.e.」。前回の構成メンバー五人に、新しくメンバーが加わって、九月の楽しみ方は、あなた次第で…。